

Ⅲ. 旗の取り扱い方

1. 国旗の掲揚法

■ 野外での掲揚法

(1) - 1 国旗をひろげて掲揚する方法

【掲揚準備】

(A) 合図（号令・号笛・手の合図）

号令：「国旗掲揚」

(B) 動作の方法

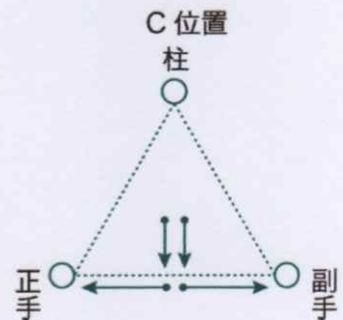
- ① 「国旗掲揚」の指示で掲揚手2人は1歩前を出て、国旗授与者に向かって駆け足で進む。(授与者に向かって**右**に正手、**左**側に副手) 正手が国旗を受け取り、掲揚柱の方向に向き、駆け足で進む。

(一例)：時間短縮のため、掲揚柱(以下単に柱という)にロープを2本いっしょにして国旗とともに綱止めにかからせておくこともできる。ただし、雨天時または、セレモニーによっては掲揚時に結ぶこともある。

- ② 柱の前で止まり、柱の方に向く。この時、柱との間隔を約1歩分あける。以下この地点を“**A**”位置と呼ぶ。柱に向かって左側の者を正手、同じく右側の者を副手と呼ぶ。
- ③ 正手のみ柱に1歩進み(以下この位置を“**B**”位置と呼ぶ)綱止めからロープと国旗をはずし“A”位置に戻り国旗を結び付ける。
- ④ 正手はロープのもつれ、よれを直し国旗をつけたロープ(とも綱)を副手に渡す。正手はもう一方のロープ(あげ綱)を持つ。
- ⑤ 正・副手は1歩後ろに下がり、1歩横に開く。真上から見て、柱と正・副手は正三角形の頂点の位置についてことになる。この位置を“**C**”位置と呼ぶ。
- ⑥ 副手は国旗を開き(国旗がたたんだまま揚がらないように注意する)国旗の下端を、ロープとともに左手でつかみ、右手で国旗の下部をかかえるように支える(肩に載せない)。正手はロープを少し引いて、国旗の上端を副手の頭頂近くまで引き上げる。
- ⑦ 正手は左手でロープをつかみ(ゆるまないよう注意する)右手をあげて準備のできた事を知らせる。右手の指は5本ともまっすぐ伸ばし、三指をしたり、握りこぶしにしない。

(C) 留意点

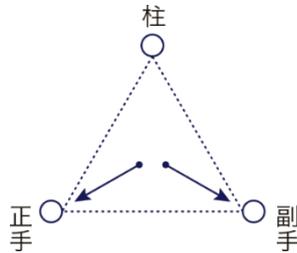
- ・ 掲揚(降納)手は国旗儀礼の主役である。きびきびした動作とスマートネスに心掛ける。
- ・ 大きい移動の時には「駆け足」。方向を変える時には「まわれ右」「右(左)向け右(左)」。正・副手のタイミングが大事(正手が号令をかけてもよい)。
- ・ 副手は掲揚柱に近づかない。



- ・ 正手が国旗をロープに結び付けているときは、副手は正手の動作に気を配り、国旗を抱えながら掲揚ロープを持ち、正手の動作の支援をする。
- ・ 正手の動作が多いが、副手も同様に重要である。正手のみが動作中の時、副手は直立不動でまっすぐ前を向いていること。
- ・ 動作は自信を持って。あわてないように、十分練習しておくこと。特に掲揚の際、他人の準備した国旗をはずすのは、あわてることが多いので、掲揚手みずから準備するほうが望ましい。
- ・ 国旗の大きさやタレヒモの長さによって“C”位置は異なるので、事前に確認すること。

(参考) 上記のものを基本とするが、国旗が特に大きい場合については、副手も“B”位置に進み正手の補助をする場合がある。

(参考) “C”位置については上図を基本として行うが、条件によっては他の方法等についても考えられる。(下図)



【掲揚】

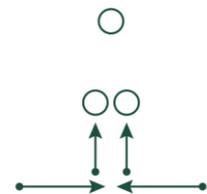
(A) 合図 (号令・号笛・手の合図)

号令：「上げ」

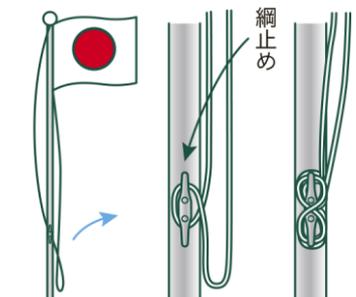
(B) 動作の方法

- ① 正手は、「上げ」の指示で右手・左手で交互にあげ綱を滑らかに引き、国旗が冠頭につくまで上げる。(伴奏音楽がある場合は、これに合わせる)。
- ② 国旗が冠頭まで揚がったら全員敬礼をやめる。(また、担当者が「直れ」の指示をする)「直れ」指示後(指示のない時は一呼吸おいて)正・副手は1歩前を出て“A”位置に戻る。正手はロープがゆるまないよう注意する。
- ③ 正手はあげ綱を綱止めに1回巻いてから、副手からも綱を受け取り、2本合わせて綱止めに8の字に巻き、端末を始末する。
- ④ 正手は“A”位置に戻り、副手に合図を送って2人そろって国旗に向かって敬礼をする。
- ⑤ 両者その場でまわれ右をし、最短距離を駆け足で隊列の自分の位置に戻る。
- ⑥ 国歌「君が代」を歌う場合は、全員国旗に向かったまま待機し、掲揚手が戻ってから歌いだす。「君が代」以外は司会の合図で中央を向いて歌う。

- 大会・ジャンボリー等、ポール・旗の大きさや参加人員の規模によって掲揚法は異なるので、注意する。



“C”位置から“A”位置への戻り方



2. 国旗の降納法

(1) 隊活動、その他セレモニーの場合

(A) 合図（号令・号笛・手の合図）

号令：「国旗降納」

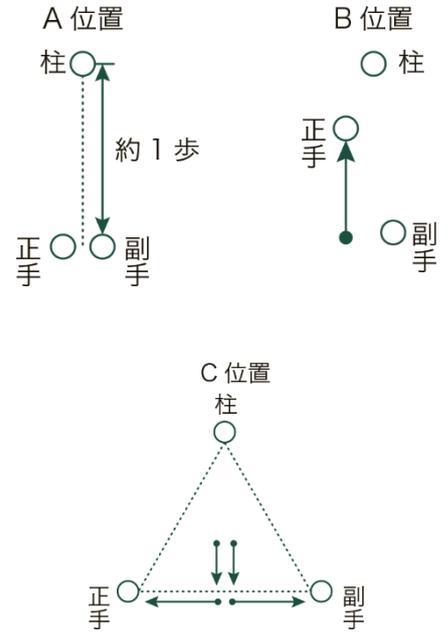
【降納準備】

(B) 動作の方法

掲揚法のほぼ逆順で行う。通常、野外での国旗降納は、降納手2人、指揮者1人（上級班長・副長等）によって行う。

降納手および指揮者は正装で行う。

- ① 「国旗降納」の指示により、降納手2人は柱の前“**A**”位置に進む。
- ② 正手の合図で2人そろって国旗に敬礼する。
- ③ 正手が一步前を出て“**B**”位置につき、柱よりロープをはずし、“**A**”位置に戻って副手にとも綱を渡す。ロープをはずす時に渡す方のロープを確認しておく事（正手はあげづな、副手はともづなを握る）。
- ④ 正・副手は“**C**”位置につき、正手が右手をあげて準備のできたことを知らせる。



【降納】

(A) 合図（号令・号笛・手の合図）

号令：「おろせ」

(B) 動作の方法

- ① 「おろせ」の指示で、副手はとも綱をゆっくりと引く。
- ② 降ろす速度は、初めゆっくり、だんだん速くする（号笛の合図により、作業中の者は、その場で作業を中止し敬礼を行う）。
- ③ 完全に国旗が降りてから、“**A**”位置に戻りロープから国旗をはずす。（主に正手ははずし副手は国旗を支える。国旗が地面につかないよう注意する）。
- ④ 正手は2本のロープを輪に結び、1歩前を出て“**B**”位置につき、綱止めにロープを8の字にからませる。
- ⑤ 正手は“**A**”位置に戻り副手とともに国旗をたたむ。
- ⑥ 指示された方法で国旗を返却する。



(参考) 国旗が特に大きい場合やロープが太い場合については、副手も“**B**”位置に進み国旗が「おろせ」の合図以前に下がらないように正手の補助をすることも考えられる。

(注) 上記のものを基本とするが、状況によりロープから国旗をはずさず、柱にロープと国旗とを一緒に結びつけ、正・副手はまわれ右をして、駆け足で隊列の自分の位置に戻る方法をセレモニー進行上行うことがある。

